

ANNUAL REPORT

2023-2024

2023年度 年次報告書

 放課後NPO
アフタースクール

2024年、おかげさまで
15周年を迎えます！

<https://npoafterschool.org>



子どもの大切な“居場所”になる

いつも放課後NPOを応援くださり、誠にありがとうございます。2023年度のご報告とあわせて応援いただいているすべての皆様に感謝を申し上げたく、本レポートを作成いたしました。

下記のエピソードは、私たちが定期的に開催している「放課後勉強会」で島根県の団体さんから寄せられた放課後の1コマです。

いつも憎まれ口を叩き、なにか話すことと言えば「俺は将来ヤクザになる」「引きこもりニートになって、ずっとゲームをして20代で死ぬ」ということばかりを言っていた男の子。

ある日、わたしとその男の子、一対一でキャッチボールをしていると、「おまえってさあ、酒飲むの？」との男の子からの投げかけ。

「めっちゃ飲むよ〜」と答えると、「じゃ、いつかおまえと酒を飲みに行くわ」とポロリと漏らしたことがあった。

皆さんはこれを読んでどんな感想を持たれたでしょうか。少年の心には荒れがあって、自己肯定感の低さを感じます。一方で、このエピソードを送ってくださったスタッフさんを頼りにする気持ちも感じます。彼の心から「HELP!」の声が聞こえるようです。

『居場所』という言葉が放課後の世界では大きなキーワードになってきました。居場所が多いほど、自己肯定感や将来の希望が増していく、というデータが内閣府から発表されたことも大きなきっかけとなっています。

「居場所」については、昨年末にこども家庭庁を中心に取りまとめた「こどもの居場所づくりに関する指針」が閣議決定されました。その中にはこのような文章があります。

『こども・若者が過ごす場所・時間・人との関係性全てが、こども・若者にとっての居場所になり得る。』

私たちは居場所という「場」をイメージしてしまっていますが、『人』も居場所になれることが語られています。先程のエピソードの少年にとって、このスタッフの方そのものが居場所であり、自分ひとりと向き合ってキャッチボールしてくれた時間はとても大切なものであったことがうかがえます。子どもも中高生になると大人とのかかわりにおいて難しさが増しますが、小学生世代であれば寄り添いや応援により支えてあげる効果が大きいことも感じます。

私たちのような放課後現場にはこのように子どもたちを支えるエピソードがたくさんあります。仲間である全国の運営事業者さんたちとの「放課後勉強会」も回を重ね、2024年3月の会では47都道府県すべてより1,700名以上が参加をしてくれる規模になりました。これからもみんなで力を合わせて、子どもの『居場所』づくりに全力で取り組んでいきたいと願っております。

2023年度、放課後NPOは15期目を締めくくりました。人間の年齢で言うと中学2年生のシーズン、思春期のような迷いもありますが、「日本全国の豊かな放課後に貢献する」という夢をかなえるための大人の組織に育ちつつあると感じております。2024年度には15周年のお祝いもさせていただきます。どうか皆さまとコミュニケーションできることを楽しみにしております。

青春真っ只中!の放課後NPOをこれからもどうぞよろしく願いいたします。

代表理事
平岩 国泰

Kuniyasu Hiraiwa



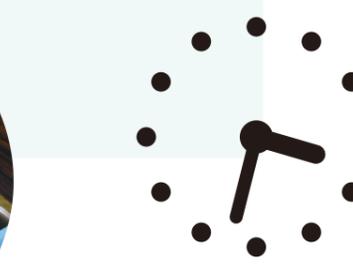
私たちの取り組み

放課後を通じて、社会全体で 子どもの幸せ (well-being) に貢献する未来を目指して

私たちは、「子どもたちの幸せ」を最上位の目標に、場づくりの実践と社会の変革を両輪で行う組織に生まれ変わろうとしており、そのために自分たちがすべきことが見えてきた1年となりました。

1 放課後の場づくりの 実践とモデル開発

私たちが直接放課後の居場所(アフタースクール)を運営することで、子どもたちにとってのより良い放課後とは何なのかを、“子どもたちと一緒に”探究し続けます。場づくりを通して培った知識・経験を整理・仕組み化し、全国の放課後の「質」向上につなげます。



2 全国の子どもの 放課後の「質」向上

全国各地の放課後の居場所における質の向上を目指すには、それぞれの地域、居場所を運営する皆さんとの協働が不可欠です。自治体を中心に企業等とのパートナーシップを結んだ放課後事業支援や、居場所運営者の支援を行うことで共により良い放課後づくりを目指します。



3 全国の子どもの 体験機会の創出

多種多様な企業・団体、さらには自治体とパートナーシップを結び、全国各地で様々な体験機会を創出することで、より多くの子どもたちの可能性を広げます。またその価値を居場所運営者やあらゆるステークホルダーと共に考え、大人の意識・行動変容を生み出します。



& 社会全体への 啓発と価値転換

放課後の持つ価値の発信や実態調査報告等を通じた問題提起、各ステークホルダーへの多角的な啓発活動を行い、放課後に対する価値転換を目指します。また将来的に日本の放課後環境全体が子どもたちや働くスタッフにとってより豊かなものとなるよう、必要な財源、人材の確保や制度の充実を目指し、行政機関へ働きかけていきます。

事業活動の広がり和社会への発信が加速した2023年。

1 放課後の場づくりの 実践とモデル開発

2023年実績 直営運営数:15 延べ参加人数:約21万人

子どもまんなかで「やりたい!」をカタチに

子どもたちのやりたいことを募り、運動会やおばけやしきなど多くの拠点で子ども主体のイベントを企画・実施。実現のために何が必要かなどをスタッフと共に考えていく過程の中で、子どもたちに大きな成長が見られました。



保護者と一緒につくる放課後

保護者同士の対話の場や夏祭り・緑日といったイベントに参画いただくなど、各拠点で「保護者と一緒につくるアフタースクール」に向けて取り組んだ1年となりました。



2 全国の子どもの 放課後の「質」向上

2023年実績 支援自治体数:9 実務者研修参加延べ人数:約4,000人

半年間の伴走支援で目指す体験活動の継続

ソニーの「感動体験プログラム」の一環で長期プログラムを宮城県多賀城市内の放課後児童クラブで実施。半年間の子ども向けワークショップと職員研修を通して、期間終了後も体験活動が継続的に実施されることを目指しました。



申込過去最多!居場所運営者向け放課後勉強会

子ども支援の基礎と実践をテーマにした第6回放課後勉強会は1,700名が参加。今後も勉強会を通じて相互に学び合えるネットワークを広げていきます。



3 全国の子どもの 体験機会の創出

2023年実績 プログラム開催数:436回 延べ参加人数:約9,200人

10周年を迎えたスマセイアフタースクール

これまでに47都道府県 450か所以上にプログラムを届け、15,650名以上の子どもたちが参加。10周年記念で制作した、放課後を応援する歌とダンス「ともだちのWA!」で、日本の子どもたちがつながりました。



夜間・休日も!三鷹市と取り組む学校活用

学校を地域みんなが集う場所=地域の共有地「commons」となることを目指す三鷹市で、夜間・休日に学校施設を活用した講座等をモデル的に企画開催しました。



& 社会全体への啓発と 価値転換

“子どもまんなか”をテーマにフォーラム開催

こども家庭庁や有識者、先進自治体と共に、子どもまんなか社会のために国・自治体ができる学校活用や放課後施策について考えるフォーラムを開催。同時発表した独自調査結果と合わせてその後の政策提言へとつながりました。



子どものウェルビーイングをテーマに 子育て層向けイベント開催

専門家を交えて子どもとの対話や居場所の重要性を考えるイベントを共催。約1,500名の方から申込みがあり、関心の高さがうかがえました。



2024年、私たちの理念が

近年、私たちが願う未来の状態の言語化に組織一丸となって取り組んできました。

「theory of change」(変化の理論)の策定を経て、団体の指針となる「未来マップ」が完成。

それを元に活動計画や目標の見直しを行う中で、

理念が今の自分たちの想いを表しているか、今もう一度向き合っています。

放課後はゴールデンタイム



Coming Soon!

私たちの理念は、団体内はもちろん、社会の中に浸透し、共感が広がることで目指す未来へと近づいていけるはず。

これから先の未来に胸が踊り、そのために私たちが放課後を通じてやるべきことがしっかりと皆さんに伝わるような理念をお披露目できたらと思います。

理念進化に向けて様々なワークショップや対話を実施
放課後NPOらしさを妖怪で表現したり、目指したい未来を表す言葉を身体感覚を使って探ったり言語・非言語問わず、みんなまで向き合ってきました。

みなさんからのメッセージ

私たちとつながり、 支えてくださるみなさんの声

子どもの声

他学年の友達と過ごすことができて楽しい
アフタースクールではいつもお絵かきやボードゲームをして過ごしています。普段の学校生活では他の学年の子と話す機会がないので、放課後はそれができて嬉しいです。アフターでの思い出は夏休みに宝探しをやったことです。いろんな学年が混ざったチームで協力して学校中を宝探しするのはとっても楽しかったです!

アフタースクール利用 6年女子

自治体の声

自治体向け情報誌 「放課後マガジン」に今後も期待

「放課後マガジン」が当市にも届き、早速にみんなで見せていただきました。放課後事業に特化した各地の事例や国の施策についての紹介をして下さることは、とてもありがたいと感じる自治体や団体等がたくさんいらっしゃると思うので、是非引き続き、発行をよろしくお願いたします。次号楽しみにしています。

自治体 放課後事業ご担当者

保護者の声

家庭にとってかけがえのない場所

いつも温かい目で子どもたちを見守ってくれる先生方には感謝しかありません。夜までいたがる子どもを見て、先生方あってこそだと思います。我々にとってアフターはかけがえのない場所となっています。今年度のようなたくさん面白い体験をさせてもらえる、そして子どもを大切にしてくれるアフターであれば嬉しいです。

公立拠点利用 保護者

法人寄付者の声

株主への配当も大切だが、 社会への還元も重要

自分たちにできないことは知見のある方々に託したい。そしてそれは長くお付き合いしたいという想いから継続的に放課後NPOアフタースクールを支援しています。子どもは財産。この大切な子どもたちがずっと大切にされるために、放課後NPOの成長と社会に対する理念浸透を願っています。

企業ご担当者

進化します!!

今後の挑戦

子どもたちの幸せを願い 放課後を通じて社会を変える

放課後NPOアフタースクールは多様なステークホルダーと連携しながら、なぜ子どもがまんなかの居場所が必要なのか、またどのようにしていきけるのかに引き続き、さらなる発信と実践を行なっていきます。

1

評価の仕組みづくりと 放課後の質の可視化



放課後の居場所の質が子どもの健やかな成長や発達にどのように影響を及ぼすのか、評価スケールを活用した調査研究を複数の自治体・放課後児童クラブ等を対象に専門機関と実施していきます。

2

放課後の課題の 可視化と認知促進



放課後の課題感を含む現状を調査し、子どもの過ごし方や家族の状況、また居場所や自治体が抱える課題など、テーマを設け定期的に社会に発信することで課題の可視化と認知の促進を行います。

3

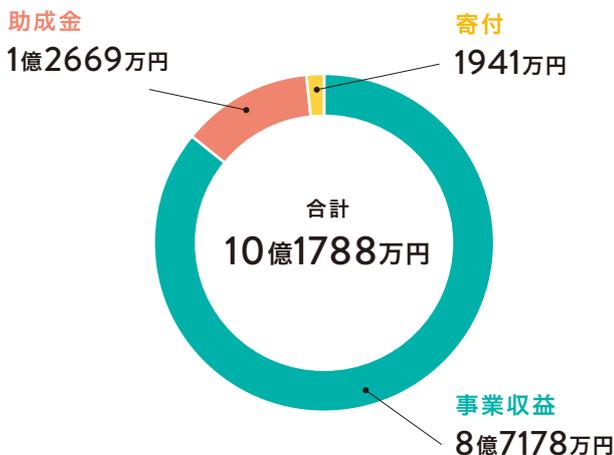
政策提言/国・自治体との連携 行政連携も含めた 社会への提案



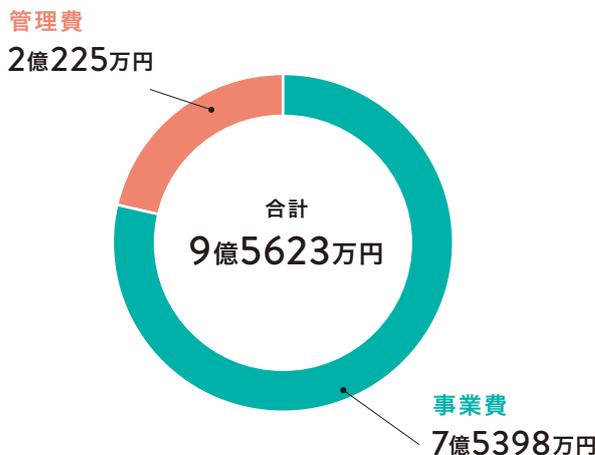
課題提起と合わせて解決策の提案を地方自治体や国に対して積極的に行っていきます。単なる要求ではなく、解決に向けた提案や事例の共有を行い、より良い選択肢を共に模索しています。

2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)の財務・会計報告

収益内訳



費用内訳



●ご寄付により実現できたこと

プログラム開催 / ファンドレイズ事業の立ち上げ / アフタースクール現場のインクルーシブ環境整備 等

●助成金により実現できたこと

プログラムの開発・開催 / 放課後現場運営者や自治体に向けた勉強会の開催 / 居場所の質評価の調査研究 等

2023年度は、年間のべ約22万人の子どもたちが運営するアフタースクールや全国各地でのプログラム開催等、自主事業における活動に参加してくれました。計上収益は10億1788万円。そのうち寄付や助成金の割合は約14%となっており、こうしたご支援を活用し新たな取り組みもスタートいたしました。一方で寄付・助成金を活用している社会への啓発活動等は必要性の高さとは対照的に利益率は低く、こうした活動は収支を圧迫してしまいます。今後もこうした活動を継続し、より多くの子どもたちに向けて拡充していくために皆様のご寄付でのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ご寄付をいただいた企業の皆様

アバナード株式会社
アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社
株式会社エージェント・インシュアランス・グループ
株式会社エポスカード
FJホールディングス株式会社
株式会社サンセイランディック
株式会社サザビリーグ

JPモルガン証券株式会社
株式会社セールスフォース・ジャパン
ソニー銀行株式会社
有限会社チェンジ・エージェント
日本ウイリング株式会社
三井住友カード株式会社
リンベル株式会社

年間10万円以上のご寄付をいただいた方

梅田 優祐様 平井 一夫様

その他、多くの皆様にご支援を賜り、団体一同心より感謝申し上げます。

ご寄付について

お申し込み・お問い合わせはWEBサイトから

放課後NPO

検索

<https://npoafterschool.org>



放課後NPO
アフタースクール

特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール
〒113-0033 東京都文京区本郷1-20-9 本郷元町ビル5F
TEL: 03-6721-5043 info@npoafterschool.org

Check our
SNS



note